

アメリカ酪農視察研修レポート

北見営業所 高畠 大志

平素は格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

平成28年10月5日から12日までの8日間においてアメリカ酪農視察研修に参加して参りましたので、御報告申し上げます。

研修日程

| 月 日 | 研 修 内 容 |
|--------|-----------------------------|
| 10月5日 | 日本からアメリカ合衆国へ移動 |
| 10月6日 | 農場視察 ウィスコンシン大学マディソン校にて講義 |
| 10月7日 | 2農場視察 |
| 10月8日 | ワールドデイリーエキスポ視察 |
| 10月9日 | ミネアポリスへ移動 |
| 10月10日 | 飼料会社からの講義 |
| 10月11日 | ZINPRO本社講義 農場視察 |
| 10月12日 | アメリカ合衆国から日本へ移動 |

視察先のウィスコンシン州とミネソタ州は北緯43°で、北海道の緯度とほぼ同じです。



粗飼料生産はアルファルファとコーンの栽培が多く、視察先の牧場では400エーカー所有し、さらに400エーカーを借り計800エーカーで大部分は自給粗飼料を生産し、内訳として300エーカーがコーンサイレージと子実用トウモロコシを栽培、残りはアルファルファを作付しております。

アルファルファは通常年4回刈り取りを実施し、播種・収穫・スラリー堆肥散布等の作業はすべてコントラ業者に委託しております。

2年コーン作付、3年アルファルファ作付、1年大豆というサイクルで圃場管理しており、小麦は別途購入しているため2年後を目途に作付も検討しているようです。

肥培管理はコンピュータープログラムで、堆肥スラリーを定期的に分析、不足分は化学肥料で対応しています。牧場主からは、今年度アメリカ中西部では収量に問題はないが、8月15日から4日間晴れた日が無いほど天候不順が続いた為、サイレージは水分が高い傾向にあり適期刈が出来ていないとおっしゃっていました。また、アメリカの乳価は振れ幅が大きい為、設計におけるコストを非常に重要視しており、その中で費用対効果も考え、粗飼料品質を最重要視しているという話が印象的でした。

カウコンフォートの暑熱対策とストールが重要であるということは視察先の牧場で共通してみられることでした。現地飼料会社の担当者から暑熱対策は換気扇、スプリンクラーがあり、特に乾乳牛への暑熱対策が重要で、ホールディングエリア、パーラーなどで水、風を牛へあてることも重要であるとの話がありました。

乾乳牛ではスプリンクラーや換気扇をあてることで分娩後乳量が9 kgアップした事例も教えて頂きました。ストールでは12~14時間寝る環境が必要で十分な広さ、十分なクッション性が大事です。砂ベッドを利用している農家が多く、良い面では快適性、リサイクル性、グリップ性、無機物であること、悪い面では扱い性、爪の形を変えてしまう、機械の摩耗が考えられることも言うておりました。

・シュレッドレージについて

現在北海道では、デントコーンを収穫する際クラッシャー機能が使われている物が多いと思います。アメリカでは「シュレッドレージ」(写真①)が近年多く使われております。

これは写真②のようにアタッチメントでローラーが2つあり、それぞれ回転速度が違い、デントコーンをボサボサに引き裂くように収穫する機械であります。

(写真③)クラッシャーより茎葉を長く切断し、裂け目を入れることで繊維の消化率を上げる為のものです。アメリカで、大部分の粗飼料がアルファルファサイレージとデントコーンサイレージ給与の為、繊維不足解消を目的に、シュレッドレージが普及しております。

アメリカ視察研修の参加につきまして大変貴重な機会を頂きました。今回の研修においてアメリカ酪農の現状を一部見ることができ、給与メニューなどの違いはありますが、カウコンフォートの重要性、粗飼料品質の向上については各視察先の農場において意識が非常に高いと感じました。



写真① シュレッドレージ機械



写真② アタッチメントローラー



写真③ シュレッドレージで調整されたコーンサイレージ